

実践的な指導ができる人材を育てる

コロンビアでは、事業者の大部分を占める中小零細企業の品質・生産性向上が課題となっている。企業指導に欠かせない実践的な知識や技術を身につける愛知県での来日研修が、2019年度から21年度にかけて年1回の予定で始まった。

JICA中部

研修コース 国別研修 コロンビア「生産性向上」
受託機関 株式会社リーム中産連



研修員の意識が高く、活発な議論が行われた毎朝のミーティング。



帰国後、コロンビアで行われた生産性向上の研修。



製品モデルの組み立てと分解を体験し、どのような手順書であれば品質や生産性を確保できるのかを具体的に学ぶ。



研修のオリエンテーションで。前列左から2番目がコースリーダーの副田武夫さん。

コロンビア第2の都市メデジン市があるアンティオキア県。同地で企業の競争力向上を指導する県科学技術センター（CTA）の要請を受け、企業に品質・生産性向上の指導ができる人材を育成する研修が、2019年5月から3週間にわたって実施された。来日した研修員は、品質管理や生産性向上のためのサービス提供を担う専門家16人だ。

研修員はコロンビアの地元企業について現状分析を行い、問題点を把握してから参加。その改善計画の作成という最終目標に向けて、講義では品質・生産性向上のための技術や手法、それらの具体的な活用方法などを学んだ。愛知県内の製造業の視察では現場を見学。工場での生産ラインの無駄を徹底的に無くしたトヨタ生産方式を学ぶ演習にも取り組んだ。

研修は初日から開始5分前に全員が集合。「朝一ミーティング」と呼ばれた毎日の朝礼を行い、前日をふり返り、ときには議論が白熱することも。そこには研修員同士でも学び合い、高め合う姿があった。研修の最後に発表した企業の改善計画は実現可能なものが多く、講義や視察から学んだことが結実していた。

帰国後は研修員が中心となり、実践力を備えた専門家を増やす取り組みを実施。日本側の研修実施者もコロンビアを訪れ、研修員が指導する企業とともに巡回し、成果の定着を確認する予定だ。こうした一連の流れをていねいに実施することで、生産性向上を実践できる人材育成が、コロンビア人だけで達成されることを目指している。

■ JICAの研修とは：途上国の多様な分野の中核を担う人々を招き、各国が必要とする知識や技術を学んでもらうもの。日本で行うものと日本以外の国で行うものがある。

コロンビア国内で学びを広げる

2019年9月、帰国研修員が講師となり現地国内研修を行った。CTAの職員を中心に20人の専門家が参加。研修員が作成したカリキュラムに沿って、生産性向上の指導に必要な理論や技術を学んだ。また20年になってからは新型コロナウイルスによる活動の制限のなか、CTAは情報技術を活用したeラーニングの促進や中南米諸国の生産性関連機関をつないでオンラインセミナーを実施するなど、地域で連携した取り組みも行っている。



コロンビアの企業で指導する研修員。



トヨタ自動車で工場の生産ラインを見学。

この研修で学べること

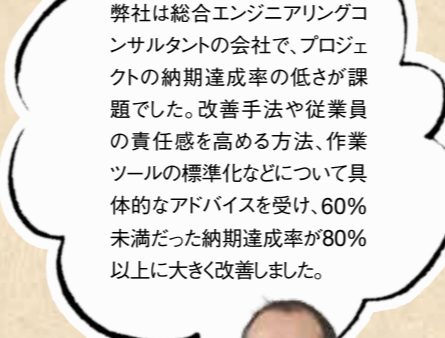
日本のもの作りの現場で学ぶ

愛知県はトヨタ自動車を筆頭に、もの作りの伝統と歴史が今も根つき、製造業を営むさまざまな規模の企業がある。研修では地の利を生かし、大企業から中小企業まで、生産性向上のための工夫を凝らした取り組みに直接触れることができた。

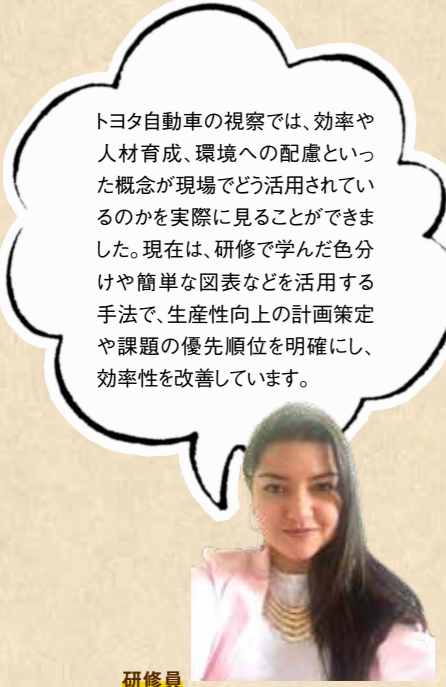
Voices



研修コーディネーター
CTA 生産ライン部門 コーディネーター
フアン・ディエゴ・ラミレス・アリスティサバルさん



研修員の指導を受けている企業
INTEINSA(インティンサ)社
アレハンドロ・ガルセスさん



研修員
CTA 生産ライン部門 プロジェクトアナリスト
アンヘラ・マリア・アギーレさん

日本では研修の円滑な進行を、帰国後は研修員たちが学んだことをコロンビアの現状に即して活用できるように支援しています。生産性向上のための技術のお手本といわれる日本の現場を視察できたことは、研修員たちの意欲を喚起したと思います。

弊社は総合エンジニアリングコンサルタントの会社で、プロジェクトの納期達成率の低さが課題でした。改善手法や従業員の責任感を高める方法、作業ツールの標準化などについて具体的なアドバイスを受け、60%未滿だった納期達成率が80%以上に大きく改善しました。

コロンビア支所&コースリーダーの目 連携で研修もさらに成長

JICAコロンビア支所 生田暢美(いくた・まさみ)さん
コースリーダー プロセスデザイン研究所 副田武夫(そえだ・たけお)さん

コロンビアには約100万の企業があり、その多くを中小零細企業が占めています。政府は彼らの技術力や品質・生産性を向上させることで、産業の活性化や国際競争力の強化、安定した雇用の確保に取り組んできました。2018年に発足した現政権でも、生産性向上は政策の主軸となっています。

そこで始まったのが、コロンビアを対象にした国別研修「生産性向上」です。CTAの主要事業の一つは生産性向上を目指す企業の支援ですが、彼らが活動するアンティオキア県では、企業のニーズを把握して適切な指導を行う、専門性を持った人材の不足が課題でした。同センターにはJICAが過去に実施した研修で生産性向上のための技術を学んだ人材が6名おり、彼らの後押しもあって今回の研修が実現しました。実施にあたり、CTAとJICA、そして受託機関となったリーム中産連が綿密に連携したことで、充実した研修内容になりました。(生田暢美さん)

初年度の研修を通して、カリキュラムの改善点が見えてきました。研修員はCTAの所属職員や個人のコンサルタントなど立場がさまざま、専門や経験の長さなどによって関心のある分野も異なりました。限られた期間内で彼らの学びを効率的に引き出すには、テーマを取捨選択し、視察、講義、演習など目的に適した方法で実施することが重要です。講義の中にコンサルティングの事例研究を加えるなど、研修員が興味を持てるようにさらに工夫していきたいです。個別指導はスペイン語の通訳が伴うためとても時間がかかりました。複数の研修員に共通する指導もあるので、グループ指導で効率を上げることもできると思います。日本、コロンビア両国で協力し、知恵を出し合いながら、よりよい研修に育てていきます。(副田武夫さん)